

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アイミッションズパーク加須新築	階数	地上3F、地下0F
建設地	埼玉県加須市豊野台一丁目563番	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	81人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2021年10月28日
敷地面積	7,294 m <sup>2</sup>	作成者	島田 信治
建築面積	4,058 m <sup>2</sup>	確認日	2021年10月28日
延床面積	11,173 m <sup>2</sup>	確認者	島田 信治



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 79%

③上記+②以外の: 79%

④上記+: 79%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 3.0	Q2のスコア = 3.4	Q3のスコア = 2.8
音環境: 3.3, 温熱環境: 2.0, 光・視環境: 3.2, 空気質環境: 4.0	機能性: 3.1, 耐用性: 3.1, 対応性: 4.3	生物環境: 3.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 2.5

**LR のスコア = 3.8**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.2	LR2のスコア = 3.6	LR3のスコア = 3.4
建物外皮の: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 2.0	水資源: 3.4, 非再生材料の: 3.8, 汚染物質: 3.6	地球温暖化: 3.8, 地域環境: 3.5, 周辺環境: 3.1

### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 埼玉県加須市に計画された物流倉庫である。敷地内には緑地を設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。	<b>その他</b> 0	
<b>Q1 室内環境</b> ・全般的にF☆☆☆☆及び規制対象外の建材を採用し、室内空気質の健全化に配慮する。	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。 ・ゆとりのある階高や積載荷重の設定により、高度な対応性・更新性に配慮する。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・敷地内に低、高木をバランス良く植栽し、生物環境の保全と創出に配慮する。
<b>LR1 エネルギー</b> ・LED照明の採用により、エネルギー使用量削減に配慮する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水効果のある水栓等を採用し、水資源保護に配慮する。 ・リサイクル材を採用し、非再生資源の使用量削減に配慮する。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼設備を使用せず、大気汚染防止に配慮する。 ・屋外照明を適切に計画し、近隣に光害を与えないよう配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)アイミッションズパーク加須新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.31</b>			<b>3.0</b>			
<b>1 音環境</b>		<b>3.3</b>	0.15			<b>3.3</b>			
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40						
1.2 遮音		<b>3.8</b>	0.40						
1 開口部遮音性能		3.0	0.60						
2 界壁遮音性能	Dr=50	5.0	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20						
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35			<b>2.0</b>			
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50						
1 室温		3.0	0.38						
2 外皮性能		3.0	0.25						
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38						
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20						
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30						
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.2</b>	0.25			<b>3.2</b>			
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30						
1 昼光率		<b>1.0</b>	0.60						
2 方位別開口									
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40						
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30						
1 昼光制御		3.0	1.00						
3.3 照度	平均照度は500LX以上。	<b>4.0</b>	0.15						
3.4 照明制御	1スパンを2つの点滅区分に分け、細かな照明制御が可能。	<b>5.0</b>	0.25						
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.0</b>	0.25			<b>4.0</b>			
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50						
1 化学汚染物質	全面的に規制対象外もしくはF☆☆☆☆の建材を採用。	<b>4.0</b>	1.00						
4.2 換気		<b>3.3</b>	0.30						
1 換気量		3.0	0.33						
2 自然換気性能		3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮	汚染源の少ない方位かつ各種排気口と6m以上離隔。	<b>4.0</b>	0.33						
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視		-							
2 喫煙の制御	喫煙室を設け、適切な換気設備を計画。	5.0	1.00						
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>			<b>3.4</b>			
<b>1 機能性</b>		<b>3.1</b>	0.40			<b>3.1</b>			
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.6</b>	0.40						
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペースは9㎡以上。	4.0	0.33						
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33						
3 バリアフリー計画		3.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		<b>3.3</b>	0.30						
1 広さ感・景観	天井高さ:3.1m	5.0	0.33						
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33						
3 内装計画		3.0	0.33						
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	防汚性に配慮した材料の採用、段差のない設計等。	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30			<b>3.1</b>			
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長いタイルカーペット等の内装材を採用。	5.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP(B)、排水:VP(B)、冷媒:銅管(C)	5.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備	非常用発電設備、無停電電源設備を設置。	4.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.3</b>	0.30	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	最も低い階の階高:6.3m		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.091		5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	倉庫設定床荷重:15000N/m <sup>2</sup>		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新、修繕が可能。		5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新、修繕が可能。		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.39</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	BPI <sub>m</sub> =0.58		<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEI <sub>m</sub> ]= 0.58		<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.0</b>	0.20	-	-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	衛生器具の過半に節水器具を採用。		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.8</b>	0.60	-	-	<b>3.8</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:ビニル床シート、床:タイル、床:タイルカーペット		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と内装材は容易に分離可能で、かつOAフロアを採用。		5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を1種類使用。		<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP<50の断熱材を採用。		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO <sub>2</sub> 排出率=79%		<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼設備の使用なし。		<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車台数を確保。		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境へ配慮した適切な照明計画の実施。		4.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)アイミッションズパーク加須	BEE	1.7	BEEランク	★★★★
------	-------------------	-----	-----	--------	------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	3.0	=	6.8	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.8
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
<配慮した内容を記述> LED照明を採用し、省エネルギーへ配慮する。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 敷地内に積極的に緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。			

:入力欄